平成14年(2002年)7月1日　第752号

広報えびな

編集・発行
海老名市役所 広報広聴課
〒243－0492
神奈川県海老名市勝瀬175番地の1
☎（046）231・2111
URL http://www.city.ebina.kanagawa.jp
＊この広報は再生紙を使用しています。

世帯と人口
（6月1日現在）

世　帯	44,363	（＋ 65）
人　口	119,258人	（＋ 50）
男	60,891人	（＋ 43）
女	58,367人	（＋　7）

開業当時そのままに残る駅舎（写真左は昭和50年ごろ）朝8時をすぎると通学の生徒でにぎわう

えびな模様…社家から

時代見つめる白い駅舎

かつて大山道が走り、今はＪＲ相模線や東名高速道路が交差する、古くから交通の要衝であった社家。今回は、江戸時代から今も息づいている大山道を皮切りに、変化を迎えつつある社家の現在をご紹介します。

古道が通り鉄道が走った

江戸時代、まだしっかりした交通網もなかったころの古道の一つ大山道。かつての江戸から大山（伊勢原市）に至る道です。大山道は大山への参拝者のための道として存在しました。現在は県道408号線に重なり、西に向かう道路として残っています。大山までは、相模川で分断されてしまいますが、対岸の厚木市との間に「岡田の渡し」という、船で川を渡らせてもらえる用意がありました。明治、大正、昭和と時を重ねるにつれて道路が整備され、その名残は道標と歴史書から知るのみです。

社家は、道路網の発達だけでなく鉄道の整備による変化もありました。大正10年、ＪＲ相模線の前身である相模鉄道が、茅ヶ崎～寒川間の運行を開始し、その5年後に厚木まで区間延長したときに社家駅が完成。当時は相模川で採取される砂利を運搬するのが主な用途でしたが、昭和30年代に旅客中心に変わっていきました。

駅舎は当時としては画期的だった鉄筋コンクリート造で、同時期に建設された厚木駅（現貨物駅）と並び、市内で現存する最古の駅舎です。外観もトンネルのような楕円の入口を持つ、非常に風合いのある形をしています。一歩駅舎の中に入ると、高めの天井が乗降客を迎えてくれます。駅近くに県立有馬高校があり、朝夕は通勤利用者と通学の高校生などでにぎわいます。

生徒からは「最近のキラキラした駅舎と違ってすごくシンプル。なんだかテレビで見る外国の駅みたい。ローカルな雰囲気が好き」という話も…。

周辺には東名高速道路があり、現在さがみ縦貫道とのジャンクション建設に着手しています。周辺の道路も整備が進み、近い将来大きな変化を迎えることでしょう。

かつての交通の要衝は、21世紀の要衝として変ぼうを遂げつつあり、その様子を社家の駅舎は昔ながらの面持ちで見守り続けています。

社家（しゃけ）アラカルト

◎**人口**（6月1日現在）
3,193人
（男1,674人・女1,519人）
◎**世帯**
1,162世帯
◎**面積**
1.68平方キロメートル
【市全面積　26.48平方キロメートル】
◎**地名の由来**
「社家」は神主などの家筋のことを指す意味があり、神職に携わる方が多く居住したのではないかと考えられていますが、そうした痕跡があまり残されておらず、現在由来は不明とされています。